



大徳寺の残 第五号

東京豊岸島塩町の内海豊吉が娘おとよの旦那守屋

儀兵衛と明治八年一月頃より中ちり成り未だ夫婦の約束あり

ども世間の憚りも有り又親類の嫌みで皆月五日外より

嫁を貰ひ今婚禮の時ありおとよが表よりおとよ

込り相生結んでござる嫁

と三九度のくどくと大言ひ

罵とば鼻つと飯の花嫁が力車ゆて

逃出に媒人の扇と焼ハ腰とぬかり海

浪の静らあらざる大騒動ツイ小巡査の

待厄分り成て親の名を汚せし耻辱す

我儘小立月てぬよふせのハあんふあどが

出来まゝとの讀るを百廿五号二出

大水堂狸昇記



大徳寺の残

第五号

百廿五号二出